

京都府立圖書館

# 昭和二十八年度事業報告

(昭和二十八年四月一昭和二十九年三月)

## 利用冊数

京都市内 五十一万冊  
郡部 二十三万冊

本館辭書体目錄の整備

伏見分館の新築

昭和二十八年四月一日

# 概況

昭和二十八年年度の京都府立図書館（本館・市内の三分館・地方の六分館）における利用者数の総計は、戦前の本館利用者数の三倍に及んでいる。但し、利用者の増加にかかわらず、館費の増加が認められないので、奉仕活動に多くの困難を生じ、四月から月曜休館を實施した。

## 一、利用者（本館並びに市内三分館）

本年度の利用者総数は、三万四千七百四十一名で、昨年度に比して、二・六四パーセントの減少であるが、月曜休館實施にかかわらず、利用者数に大差のなかつた事實でいかに図書館利用熱が高いかを推知することが出来る。（昨年度の一日平均利用者数一千九十九人、本年度一千九十七人）

昭和十二年（戦前最高）	二九、二〇一名
昭和二十五年年度	二三五、七四一名
昭和二十六年年度	二三五、五六〇名
昭和二十七年年度	三一一、九九六名
昭和二十八年年度	三〇四、七四一名

## 三、館外貸出冊數（貸出期間一ヶ月、郡部を對象とする活動）

昭和二十五年年度	二九、九七三冊
昭和二十六年年度	四五、三四七冊
昭和二十七年年度	六一、二八〇冊
昭和二十八年年度	七七、四四三冊

これらの長期貸出の圖書は、おおむね三人の利用者の手を経る状況であるから、昭和二十八年年度の長期貸出利用者数は、約二十三万人と推定せられる。

## 四、京都市内四館の利用者の内訳

利用者数	本館				計
	伏見分館	河原町分館	上京分館	計	
利用冊數	三〇、〇〇人	三〇、〇〇人	三〇、〇〇人	三〇、〇〇人	三〇、〇〇人
開館日數	三三、四八冊	三三、四八冊	三三、四八冊	三三、四八冊	三三、四八冊
一日平均	二七二日	二七二日	二七二日	二七二日	二七二日
これを男女別にみると、	男 一三一人	女 一三一人	男 一三一人	女 一三一人	男 一三一人 女 一三一人

更に、これを一般人と學生とに別けて見ると、

一 般	本館				伏見分館	河原町分館	上京分館	
	本館	伏見分館	河原町分館	上京分館				
學生	一九%	一八%	五六%	一四%	八二%	四四%	八六%	
尚、學生の種別は、岡崎本館の調査によれば、	大学生	三〇%	高校生	四〇%	中学生	一六%	小学生	一四%

## 五、利用圖書の内容

岡崎本館の本年度の利用冊數は三十五万六千二百四十八冊で一日の利用冊數は平均一千三百十五冊、一人の平均利用冊數は一・七冊である。いま、これを圖書の種別で示すと、次の通りである。

総記	五・〇%	哲学宗教	三・二%
歴史地誌	一〇・三%	社会科学	一三・八%
自然科学	一〇・七%	工 学	三・〇%

産業	二・〇%	芸術	三・七%
語学	三・三%	文学	一八・六%
児童書	一六・五%	新聞雑誌	九・九%

### 六、藏書冊數

昭和二十八年度末における京都府立圖書館の藏書冊數は二十三万十九冊で、本年度中における購入圖書六千八百七十冊、受贈圖書百四十四冊、編入受入圖書百五十八冊、計七千七百七十二冊の増加に對し、毀損亡失などによる除籍圖書千三十一冊（うち台風十三號による破損流失などのもの百三十七冊）、合本による數量更正減十一冊であつて、昨年度末に比して、六千三百十冊の純増であつた。藏書の内譯は、次の通りである。

岡崎本館	一八四、四四一冊
本館貸出文庫	二〇、〇四四冊
伏見分館	四、七六三冊
河原町分館	四、〇七三冊
上京分館	三、三六〇冊
峰山地方分館	二、九七一冊
宮津地方分館	二、九六七冊
綾部地方分館	一、四九二冊
園部地方分館	一、五二二冊
北桑地方分館	一、五一二冊
木津地方分館	三三〇、〇一九冊
總計	

### 七、開架室の利用状況

現在、開架された圖書は、基本圖書並びに利用頻度の高い圖書であつて、新聞雑誌と共に、一般利用者の自由利用に供せら

れている。開架冊數の内譯は、

児童室	約二千冊
學生室	約二千五百冊
一般閱覽室	約八千冊

### 八、讀書相談奉仕の充實

昭和二十七年十月より本館に讀書相談室を新設し、専任の司書を置いてこれに當らせ、開始以來成績をあげてきた。本年度の相談件數は一万三千百五十七件であつて、このうち、口頭による相談が一万五百七十一件、電話によるものが二千四百三十一件、郵便による問合せが百五十五件であつて、一日平均五十件の相談に應じている。

### 九、辭書体目録の採用

かねてから、實施中の分類變更と目録の更新とが一部できあがつたので、辭書体目録を編成して昭和二十八年十月二十三日から利用者へ提供した。これは、著者名・書名・件名の三種の目録を一括して、アイウエオ順に排列したもので、利用者が思うままに、これら三つのカギから求める圖書を、容易に探し出すことが出来るものである。

### 十、児童室

近來學校圖書館が著しく充實して來たことと並行して、児童室の利用も増大した。附近の小学校児童より圖書委員を選んで圖書室の運営に協力してもらつてゐる。本年度中の利用人員は二万二千六百二十九名で、男女の比率は男兒五十五パーセント、女兒四十五パーセントである。

## 十一、分館

### (一) 伏見分館（昭和二十五年二月創設）

伏見地区は岡崎本館より約八軒を隔て、分館の負う使命は大  
きい。現在は、伏見信用金庫の二階約六十坪を借用している。  
本年度の利用者数は三万七千六十名で、その八十二パーセント  
は学生である。伏見分館新築については、數年前から、地元  
の要望が續けられて来たが、土地を地元寄附に求め、豫算四百五  
十万円、伏見区瀬戸物町七百四十六番地に木造平家建百坪余  
を建築し、二十九年六月には、新館に移轉の豫定である。

### (二) 河原町分館（昭和二十四年六月創設）

京都の繁華街河原町通に位置し、丸善書店の地階約三十坪を  
利用している。蔵書は小説と隨筆と新聞雜誌とに限り、その内  
容も、常に新陣代謝をはかつている。蔵書冊数は約四千冊で、  
完全開架制をとっている。席は約五十人分あるが、常に満員の  
盛況である。本年度中の利用者總数は三万九千七百七名で、學生  
以外の一般人の利用が多く、五十六パーセントを占めている。

### (三) 上京分館（昭和二十六年四月創設）

上京地区も岡崎本館より距離遠く、分館充實の必要を強く感じ  
させられる。現在の分館は紫郊會館の一室を借用して閲覧室と  
している。蔵書はクルーガー文庫と合せて約三千三百冊である。  
部屋の狭小のため、蔵書並びに閲覧席の増加が出来ない状況で  
ある。本年度の利用者は二万三千七百三十四名である。

### (四) 地方分館

昭和二十五年七月峰山・宮津・綾部の三地方分館が發足し、  
昭和二十七年更に園部・北桑・木津の三地方分館が開設せられ

た。これらの地方分館は、地域内の公民館・婦人會・青年團、  
その他の文化團體に對して、三十冊乃至五十冊の團體貸出（期  
間一ヶ月）を行うものであつて、その利用團體数は本年度二千  
二百三十團體の多きに上つた。又、その貸出冊数は七万二百八  
十六冊に達した。今、その内譯を示せば、次の通りである

館名	利用團體數	利用冊數
峰山地方分館	三八九團體	一四、八四四冊
宮津地方分館	二七二	一四、五八二
綾部地方分館	四九〇	一七、二九七
園部地方分館	二三〇	六、三八九
北桑地方分館	三五一	九、一六二
木津地方分館	四九八	八、〇一二
總計	二、二三〇	七〇、二八六

### 十二、本館付屬貸出文庫

本年度における文庫の利用團體数は百五十一團體で、その貸  
出冊数は七千五百五十七冊であつた。利用團體の半數は、京都市  
内で、その他は、近郊の農村地区である。

尙、公共職業安定所、家庭裁判所、簡易裁判所と連絡して新  
分野を開いた。

### 十三、經費

本年度諸經費は約一千五百七十万円で、その内譯は人件費約  
九百九十万円（六三・〇パーセント）、圖書購入費約三百二十  
六万円（二〇・七パーセント）（書籍二百二十六万円、新聞雜誌  
九十万円）その他の經費約二百五十五万円（一六・三パーセン  
ト）であつた。尙、二十九年三月末現在の館員は、主事十八名  
、主事補二十二名、傭人一名、臨時雇八名である。